

米国アカデミー賞公認 アジア最大級の国際短編映画祭 東京発ショートフィルムの祭典
ショートショート フィルムフェスティバル & アジア 2026
第2回「サイバーエージェント縦型アワード」
ノミネート12作品を発表

映画祭に集まった過去最多の全663縦型作品から選定！
前回覇者こねこフィルムや市原隼人さん、浅利陽介さん出演作もノミネート

米国アカデミー賞公認・アジア最大級の国際短編映画祭、ショートショート フィルムフェスティバル & アジア（略称：SSFF & ASIA）2026は、株式会社サイバーエージェント（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：山内隆裕、東証プライム市場：証券コード4751、以下サイバーエージェント）と共に、縦型動画に特化した【サイバーエージェント 縦型アワード（英語：CyberAgent Vertical Award）】ノミネート作品を発表いたしました。SSFF & ASIAの歴史の中でも最多となる663もの応募があった縦型作品（2026年3月31日時点）の中からショートドラマやSNS動画などにおいて高い効果・表現力を発揮した優れた縦型作品全12作品を映画祭への応募作品の中から選出いたしました。https://www.shortshorts.org/2026/news-reports/ca_vertical_finalist/

ノミネートされた12作品の中には、前回もファイナリストに選出された「ごっこ倶楽部」や「こねこフィルム」が制作した作品や高頻度でショートフィルムをTikTokやSNSで発信し、人気を博している「いぶよへスカッシュ」や「コワゾー@怖くてゾッとする体験型ホラー」といったアカウントで発信されているショートフィルムもありました。出演者も市原隼人さんや永田崇人さん、濱正悟さん、浅利陽介さんなど多様なジャンルで活躍されている方々もあり、バラエティに富んでいます。

なお、ノミネート作品は5月26日（火）～5月31日（日）13:00～14:00にMoN Takanawa: The Museum of Narrativesパークテラスで上映が行われます。

本アワードは、縦型動画にて「高い効果・表現力」を発揮し、創造性やメッセージ性、映像表現の革新性を有しているかを審査基準に選定された12作品の中から最も優秀な本アワード受賞作品が決定され、6月10日の映画祭アワードセレモニーでプレゼンターの株式会社サイバーエージェント エンターテインメントプロデュース局 局長・プロデューサー 安藤 達也 さんから賞金：50万円と、副賞として、極AIお台場スタジオ体験ツアー & スタジオを使用した作品制作権が授与されます。

また、セレモニーでは安藤達也さんより今後のサイバーエージェントの縦型動画プロジェクトの発表を行います。



【サイバーエージェント縦型アワード】について

● 目的：サイバーエージェントとSSFF & ASIAで“縦型コンテンツ”の集積地となる新たなアワードを設立し、縦型動画クリエイティブの未来を創出する場とします。

● 表彰対象：縦型動画にて「高い効果・表現力」を発揮したクリエイティブ作品（ショートドラマ、ブランドムービー等）。

特に、創造性やメッセージ性、映像表現の革新性を有する国内作品・団体・プロジェクトを対象とします。

● 受賞内容 賞金：50万円、副賞：極AIお台場スタジオ体験ツアー & スタジオを使用した作品制作権

「極AIお台場スタジオ」は、サイバーエージェントが所有する、AIや3DCGを活用し広告効果の最大化に特化したクリエイティブ制作スタジオ。特徴の異なる3台のLEDウォールや高品質なボリュメトリックキャプチャが可能で4Dスキャン、編集室、収録室などの最先端設備を完備。



〈サイバーエージェント縦型アワードノミネート〉



証明写真

企画 藤原 洋 撮影 藤原 洋 編集 藤原 洋 演出 藤原 洋 脚本 藤原 洋 監督 藤原 洋



永い夕風 The Long Evening Calm
監督：石川敬二/日本/0:05:11/ドラマ/2025

2025年冬、葵は故郷・小豆島へ戻る。解体が迫るかつての分校で、幼なじみ海斗からの古い手紙と自由帳の言葉に出会い、長く止まっていた心の時間が静かに動き出していく。



上り坂の途中で On the way up the hill
監督：伊藤優太/日本/0:18:00/ドラマ/2026

微かに聞こえる心電図のアラーム。その音を遠くに感じながら、少女は静かに目を閉じ——そして最後の夢を見る。そして高校3年間の記憶を思い出して行く。これは、ある少女が歩いた「青春の軌跡」の物語



AIDOL課長 AIDOL KACHO
監督：Chavo/日本/0:20:58/ドラマ/2025

冴えない中年課長は、女装とAI加工でアイドル配信者として人気を得ていた。現実では評価されない男が、仮想の人格で承認を得るうちに、仕事・家庭、そして自分自身との境界が崩れ始める。



思い込み Assumptions
監督：三野龍一/日本/0:02:33/ドラマ/2026

電車内。見た目だけで外国人だと判断した女性は、隣に座る男性に英語で話しかける。男性はその意図を汲み取り、戸惑いながらも優しく英語で受け答えを続ける。どこかごちないが、相手を気遣うやりとりが続く。そこへ男性の昔からの友人が乗車。気さくに日本語で話しかけると、男性も自然に流暢な日本語で応じる。女性はそこで初めて気づく。——彼は外国人ではなく、日本人だったのだと。気まずさと驚きが交錯する中、男性は何事もなかったかのように友人と会話する。



大人なんて What an adult
監督：古川 拳多/日本/0:03:44/ドラマ/2026

理不尽な教師に没収された大切な品を取り戻すため、変身薬や能力を駆使して職員室潜入作戦を決行。仲間と協力し奪還に成功するも、薬の副作用で姿が戻らなくなるドタバタ奪還劇。

〈サイバーエージェント縦型アワードノミネート〉



最期の、ありがとう。#1~3+ For Their Final Journey #1-3+
監督：宮武 由衣/日本/0:18:25/ドラマ/2025

藤田先輩の仕事への愛とひたむきさに心突き動かされた徳久は、葬儀の道へのめり込む。藤田の背中を追い続ける徳久は、伝えられなかった『ありがとう』を胸に、たくさんの「最期の瞬間」に心で向きあってゆく。



パレード 界限 Around the parade
監督：森本晶一/日本/0:22:21/ドラマ/2025

“パレード”の開催で街全体が高揚している中、8人はその楽しげな喧騒から少し離れたところにいる。年齢や境遇も異なる2人組が6つの環境で繰り広げるやり取りには、決して斬新さはないものの、なぜか覗いていたくなる。



令和の学校の七不思議その1 School Ghost Stories of the Reiwa Era, Vol. 1
監督：佐藤周/日本/0:01:36/ホラー/2024

とある学校、そこに現れたウラベア人形が生徒たちを次々と狙っていく...



青のカノン Canon in Blue
監督：合田ピエール陽太郎/日本/0:18:03/ドラマ/2025

文化祭でプラネタリウムを作ることになった3人の高校生。推薦、一般、浪人—それぞれの立場で受験に向き合う彼らが、葛藤を越え、仲間と前に進む姿を描く。「君が過ぎてきた時間は、未来の力になる。」



「誰かの足」 A Stranger's Foot
監督：大塚 竜也/日本/0:02:04/ミステリー/2025

不気味なほど穏やかな夫が笑顔で差し出すお土産は、2人を破滅へ突き落とす罠だった。



「アンチコメント返却サービス」Anti-comment return service
監督：小森 裕己/日本/0:05:25/ホラー/2025

SNSや配信サイトが日常に溶け込んだ現代社会。洋介は、ある日奇妙なサービス「アンチコメント返却サービス」といったアルバイトの存在を知る。それは自分に誹謗中傷を送ってきた相手特定し、その悪意をそっくりそのまま本人へお返し（返却）するというもの。

主人公は悩みながらもサービスを利用し、コメントで攻撃してきた相手の元へ直接「アンチコメント」を突き返していく。しかし、悪意をそのままお返しした先で待ち受けていたのは、想像もしていなかった予想外の結末だった。

ノミネート作品は5月26日（火）～5月31日（日）13:00-14:00にMoN Takanawa: The Museum of Narrativesパークテラスで上映が行われます。

https://www.shortshorts.org/2026/program/program_cat/cyberagent-vertical-award-nominated-films-%e2%91%a0/
https://www.shortshorts.org/2026/program/program_cat/cyberagent-vertical-award-nominated-films-%e2%91%a1/

【ショートショート フィルムフェスティバル & アジア 2026 概要】

■開催期間：

5月25日（月）オープニングセレモニー

5月26日（火）～6月9日（火）東京会場

6月10日（水）アワードセレモニー

※オンライン会場は 5月25日（月）～6月30日（火）

（期間により配信プログラムが異なります。）

■上映会場：MoN Takanawa: The Museum of Narratives

（Box1000、Tatami、パークテラス）

赤坂インターシティコンファレンス、ユーロライブ、

WITH HARAJUKU HALL、LIFORK HARAJUKUほか

※会場により、期間、プログラムが異なります。

■チケット：

【前売り】一般 1,500円、大学生 /U29 /シニア/ 障がい者割引 1,200円

小学生・中学生・高校生 1,000円 小学生未満 無料

【当日券】一般 1,800円、大学生 /U29 /シニア/ 障がい者割引 1,500円

小学生・中学生・高校生 1,300円 小学生未満 無料

【パスポート】一般 7,000円、学生 /シニア/ 障がい者割引 5,500円

【オンライン会場】2,500円（日本国内） / 15米ドル（日本国外）

※オンライン会場のパスポートは5/25から販売開始

■一般からのお問い合わせ先：info@shortshorts.org

■オフィシャルサイト：<https://www.shortshorts.org/2026>

■主催：ショートショート実行委員会 / ショートショート アジア実行委員会



【ショートショート フィルムフェスティバル & アジア】

SHORTSHORTS

FILM FESTIVAL & ASIA

米国俳優協会（SAG）の会員でもある俳優 別所哲也が、米国で出会った「ショートフィルム」を、新しい映像ジャンルとして日本に紹介したいとの想いから1999年にアメリカン・ショート・ショートフィルムフェスティバル創立。2001年には名称を「ショートショート フィルムフェスティバル（SSFF）」とし、2004年に米国アカデミー賞公認映画祭に認定されました。

また同年、アジア発の新しい映像文化の発信・新進若手映像作家の育成を目的とし、「ショートショート フィルムフェスティバル アジア（SSFF ASIA 共催：東京都）」が誕生。現在は「SSFF & ASIA」を総称として映画祭を開催しています。

2018年に映画祭が20周年を迎えたことを記念し、グランプリ作品はジョージ・ルーカス監督の名を冠した「ジョージ・ルーカス アワード」となりました。2019年1月には、20周年の記念イベントとして「ショートショートフィルムフェスティバル in ハリウッド」が行われ、また、2019年の映画祭より、ライブアクション部門（インターナショナル、アジアインターナショナル、ジャパンの各カテゴリー）およびノンフィクション部門の各優秀賞4作品が、2022年からはアニメーション部門の優秀賞を含む5作品が、翌年のアカデミー賞短編部門へのノミネート候補とされる権利を獲得しました。SSFF & ASIAは映画祭を通じて引き続き、若きクリエイターを応援してまいります。

【公式ウェブサイト】<https://www.shortshorts.org>

【本件に関するお問い合わせ先】

ショートショート フィルムフェスティバル & アジア PR事務局（株式会社サニーサイドアップ内）

担当：阿部・武田 TEL：03-6894-3200 / FAX：03-5413-3050 / E-mail：SSFF@ssu.co.jp

ショートショート実行委員会 担当：田中 TEL：03-5474-8201 / FAX：03-5474-8202 / E-mail press@shortshorts.org

【本資料に関する画像については、下記よりダウンロードいただけます】

https://drive.google.com/drive/folders/10mp4t0GuhKcnMECv6mVxSRQtKD5Ety4p?usp=drive_link